




3 オホーツク連携地域 (網走地域)

3 オホーツク連携地域(網走地域)

北見市、網走市、紋別市、美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、上湧別町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町、大空町



産業3部門別就業者割合(平成17年国勢調査(産業別就業者数)から)

第1次産業 、第2次産業 、第3次産業 



産業・経済の現状と課題

商工業・建設業

- ・製造業は平成18年工業統計調査によると、576事業所で、製造品出荷額等は4,248億円となっており、業種別構成を見ると、食料品製造業が77.4%と最も高い割合となっている。
- ・また、豊かな農林水産資源を活用した新製品開発等への取組みみられており、大学や公設試験研究機関との連携などにより、これらの取組を一層加速させる必要がある。
- ・建設業は、建設投資の減少や経済活動の低迷により平成19年度の公共工事請負金額は750億円と、平成14年度と比べると40%減少するなど厳しい経営環境が続いており、経営体質強化や新分野進出が課題となっている。
- ・小売業は、平成19年商業統計調査によると、商店数は3,148店、従業員数2万396人と平成16年に比べて、商店数で6.7%、従業員数で7.3%とそれぞれ減少している。さらには、大型店の郊外出店などにより中心市街地の空洞化が進んでいることから、空き地・空き店舗の活用やイベントの実施など、魅力ある商店街づくりに向けた取組を進めていく必要がある。
- ・IT企業について、「北海道ITレポート2007」によると、北見市には8事業所が存在し、従業員数は151人、売上高は18億円となっており、GIS・GPS関連ビジネスを行う企業など、独自の事業展開を志向する企業が存在する。
北見市では、北見工業大学に隣接する一体を「北見ハイテクパーク」として整備し、情報通信関連産業の重点的な集積を図っている。

観光

- ・オホーツク地域は知床、阿寒の2つの国立公園、網走国定公園の他、斜里岳、天塩岳の2つの道立自然公園を有しており、森と湖と海が調和した四季折々の自然が豊かな圏域である。特に冬はわが国唯一の流氷地帯となるなど、ユニークな特徴を持っているが、観光入込客数は、平成19年度で925万人で、対前年比で7.2%の減少となっている。最近では従来の夏型のイベントに加えて、流氷や冬のスポーツを利用した冬型のイベントも各地で行われるようになり、「オホーツクの冬」が観光資源として定着してきた。また、

「花」をテーマとした新たな広域観光や豊富な農林資源等を活かした乳製品加工、木工クラフトづくりなど体験型観光への取組も進められている。

- ・ 今後は、知床などにおける自然環境と観光の共生や食の魅力アップなど地域資源を活かした通年滞在型の観光地づくりを進めていく必要がある。

農業

- ・ 管内の耕地面積は、全道の14%を占め、この広大な土地資源を背景に、小麦、馬鈴しょ、てん菜を基幹作物として、全道一の生産量を誇るたまねぎなどの野菜を加えた畑作や酪農を主体とする生産性の高い農業を展開しており、食料供給地域として重要な役割を担っている。
- ・ WTO農業交渉やEPA交渉など国際化が進展するとともに、農家人口の減少・高齢化が進む中で、近年、環境問題や食の安全・安心に対する消費者の関心・要請が高まっており、これら農業を取り巻く環境の変化に対応した持続可能なオホーツク農業を確立するため、地域の農産物の付加価値の向上や農業経営の体質強化に向けた取組を進める必要がある。

水産業

- ・ 管内の水産業は、オホーツク海沿岸を漁場とするホタテガイ桁網漁業、サケ定置網漁業並びに沖合海域を漁場とする沖合底びき網漁業を中心に営まれており、平成18年の漁業生産高は26万トン、517億円にのぼり、漁獲量は、前年比約4%減、金額では前年比の約4%の増となったが、近年の低気圧被害により主要魚種のひとつであるホタテガイの生産量が減少しており、災害に強い漁場づくりを進めていく必要がある。
- ・ 一方、水産加工業は、かつての主原料であったスケトウダラなどの多獲性魚種の漁獲が減少したことから、地場資源の有効活用を図りながら、高次加工や新分野への事業転換に取り組んでいる。

林業・木材産業

- ・ 管内の森林面積は、77万haで土地総面積の72%を占め、これは全道森林面積の14%に当たり、道内の主要な木材生産地となっている。
- ・ 国有林、道有林は天然林の割合が大きく、一般民有林は造林が進み、人工林率は56%に達している。特にカラマツ人工林は、一般民有林人工林面積の49%を占め、主要な樹種となっている。
- ・ 道内外からの木材需要の拡大を背景に、近年カラマツ人工林を中心として森林の伐採が活発化している一方、森林所有者の後継者不足などから植林されないまま放置される伐採跡地が増加する傾向にあることから、このままの状況で推移した場合、森林の有する公益機能の発揮や将来に向けた資源の保続が危ぶまれている。

3 オホーツク連携地域 (網走地域)

産業・経済のめざす姿

ホタテガイ、たまねぎ、エゾシカなど豊富な地域資源を活かした加工品開発など地域産業の振興
知床など特色ある自然を活かしたエコツーリズムなど環境と調和した「観光」のブランド化
「Fromオホーツク」のロゴマークの普及や「オホーツクブランド認証制度」との連携などオホーツクの統一イメージの形成・発信による地域ブランドの確立

3つの戦略的視点による産業・経済活性化

付加価値

地域資源を活かした新製品開発や新たなオホーツク観光の魅力づくりなどにより、付加価値の向上を図る。

製造業の振興

- ・北見工業大学、東京農業大学及び道立オホーツク圏地域食品加工技術センターなどとの連携による、北見市や清里町における食酢の製品開発や西紋地域におけるチーズ製品の開発など、地域資源を活かした新製品や新たな産業技術の開発などへの取組を、中小企業地域資源活用プログラムや融資制度など国や道の支援施策の活用等により加速する。
- ・木材・木製品製造業では、日本最大の森林認証エリアを形成した遠紋地域の企業が連携し乾燥技術の向上などによる高付加価値な製品を生産する体制づくりを推進するとともに、新市場開拓のため、関東圏でのアンケート等を実施し、ニーズに即した製品づくりを促進する。
- ・通信機器製造メーカーの進出により電気・情報通信・電子部品製造業が全道でも有数の従業員数を擁している北見地域では、北海道産業振興条例や企業立地促進法など国や道の支援制度の活用などにより、食品関連企業や情報通信関連企業などの立地を図り、地域をけん引する産業の集積形成を促進する。

「食」のブランド化の加速

- ・管内の農協が出荷する農畜産物に使用する「Fromオホーツク」のロゴマークの普及や財団法人オホーツク地域振興機構が管内の農水産物を主原料とした、安全で、おいしく、優れた品質の加工品を認証する「オホーツクブランド認証制度」との連携等により、「オホーツク」産農畜産物のブランド化を推進する。
- ・食品メーカーやコンビニエンスストアなど企業とタイアップしたイベント等の開催により、オホーツク産食材を使用した料理を提供するなど、官民一体となった宣伝活動を展開する。
- ・インターネットなどの活用による消費者や観光客への効果的なPRや、管内の生産者や加工業者、小売店、道の駅、観光地のおみやげ品店などとの連携により、地域の食材を活用した新たな食品づくり（小清水町産ゴボウを使用したかりんとうや斜里町産小麦を使用したラーメンなど）など、付加価値向上の取組を推進する。
- ・衛生管理の向上を図るため、屋根付き岸壁や取排水施設などの整備により、安全かつ良質な水産物を安定的に供給する。

- ・水産物の輸出拡大のため、サケのEU向け輸出の検討、「オホーツクサーモン」及び「釣りキンキ」の地域ブランド定着化を進めるとともに、道産水産物ブランド化推進事業等の活用などによりシラウオ・活じめサケのブランド化を促進する。

「観光」のブランド化の加速

- ・世界自然遺産「知床」をはじめとする優れた自然や流水・花・温泉など、観光資源に恵まれたオホーツクの素晴らしさを、「オホーツク」そのもののブランド化を目的に推進する「オホーツクエリアアイデンティティ」の一環として取り組む各種プロモーション活動等を通じて国内はもとより海外に発信する。
- ・グリーンツーリズムや森林ウォークなど体験型観光メニューの創出や豊富な地元食材を利用した食の魅力アップなど、新たなオホーツク観光の魅力づくりに向けた取組を推進する。
- ・地域と観光客が一体となって取り組む質の高い観光振興を目指し、環境保全と観光の両立を図る知床型エコツーリズムやオホーツク流水トラスト運動の一環である旅エコプロジェクトを推進する。

【コラム】

<オホーツク・エリア・アイデンティティ(オホーツクAI)とは>

オホーツクは、全道一の水揚げ高と森林面積、全道2位の農業生産高を誇る豊かな一次産業を育み、知床世界自然遺産や流水など国内有数の自然環境、オホーツクブルー(オホーツク特有の晴れ渡った青空)に代表される暮らしやすい気候風土など、類い希な資源に恵まれた地域です。

オホーツクAIとは、地域に住むひとりひとりが、この地域を見つめ直すことでオホーツクの素晴らしさを再認識しオホーツクの住民として誇りを持ってもらいたい、また、地域全体が一つになってオホーツクの素晴らしさを情報発信することで、もっと多くの方にオホーツクを知ってもらいたい・・・こうした思いを形にした取組です。

取組の一例として、減少が続く流水保護を目的に、宿泊施設における室温調整など、CO₂削減と地球温暖化防止に向けた「オホーツク流水トラスト運動」を推進し、「環境先進地オホーツク」を全国にPR。また、オホーツクのキャラクター「つくつくオホーツクん」やロゴマークを制定しオホーツクのイメージアップに取り組んでいます。



成長分野の強化

- ・北方系植物や地域資源が有する機能性を用いた食品等の開発、ホタテガイの加工残渣を有効活用した製品開発など、バイオ、環境・リサイクル分野等の新産業の創出のため、地元企業と大学・公設試験研究機関などとの連携を図るとともに、中小企業地域資源活用プログラムや北海道産業振興条例に基づく助成制度など国や道の支援制度の活用などにより、中小企業の競争力強化を図るための新技術・新製品の開発を推進し、商品化後の販路開拓を促進する。

3 オホーツク連携地域 (網走地域)

- ・企業立地促進法に基づく北見地域の産業集積の形成等に関する基本計画に沿って、ITを活用した精密農業の取組のほか、地震リスクが少ない特性を生かして金融機関等のデータセンターやバックアップセンターの誘致を促進する。

建設業の経営改革

- ・建設業の経営体質強化を図るため、情報提供や建設業等経営革新補助事業など国や道の支援制度を活用するとともに、「中小企業者等に対する受注機会の確保に関する推進方針」に基づき、中小企業者等の受注機会の確保に努める。
- ・これまでの新分野進出事例としては、農作業の受託や産業廃棄物処理などが見られるが、進出に当たっては、人材の育成・確保や資金調達など課題も少なくないため、こうした取組のフォローアップに努める。さらに、市町村など地域の関係団体と連携し、建設業等経営革新補助事業や経営力強化・新分野進出支援人材育成事業など国や道の支援制度を効果的に活用するとともに、新技術情報の提供、市場開拓などのマーケティング対策及び成功事例や融資制度の紹介等により、建設業の新分野進出に向けた取組を促進する。

連携 協働

建設業、大学、行政機関との連携や公設試験研究機関の産業支援機能の活用などにより、新たな「食」の魅力づくりなど、個性あふれる産業づくりを進める。

産学官連携の推進

- ・「北見地域リサーチ&ビジネスパーク構想」や産学官の参画による新技術・新商品の開発や滞在型の観光地形成を目指す「北見地域産業振興ビジョン(平成18年度策定)」に基づく事業の推進により、域外市場産業を強化する。
- ・北見工業技術センターを中心としたスイートコーン自動整列装置の開発や緊急避難用呼吸器の開発、並びにオホーツク圏地域食品加工技術センターを中心としたハマナスからのポリフェノール抽出やGABAの安定的な生成のための技術開発など産業間、産学官連携による新産業創出に繋がる各プロジェクトの開発、事業化を促進する。

産業間連携・協働

- ・建設業、大学、行政機関などとの連携により、エゾシカ肉の販路の確保やエゾシカ肉を使ったオホーツク独自の加工品開発などを促進する。

まちづくりの中での商業の振興

- ・宅配サービス等の新たなサービスの提供、中心市街地活性化法等の活用による都市機能の郊外への拡大抑制と、市街地への集約促進、空き地・空き店舗の活用などによる賑わいの創出など、まちづくりと連動した取組を促進する。

連携による雇用対策

- ・新一村一雇用おこし事業など国や道の支援制度を活用し、市町村の地域づくりと連動して、地域の特色を活かした新規創業、新事業展開等による雇用創出を促進する。
- ・国の地域雇用創造推進事業の有効活用による市町村などにおける雇用創造の取組や、地域雇用開発助成金をはじめとする国の事業主向けの助成金の活用による地域求職者の雇い入れ等を促進する。
- ・季節労働者通年雇用促進協議会への参画を通じ、季節労働者の通年雇用化を促進する。
- ・ハローワークなど関係機関との連携による求人要請や新規高卒者就職フェアの開催、ジョブカフェ北見の活用などにより若年者向け就職支援を実施する。

環境との
好循環

地域の豊かな自然環境を守りつつ、次の世代にしっかりと引き継いでいけるよう、資源管理型漁場の確立や環境・リサイクル産業の振興などを進める。

「環境」と調和した農業の振興

- ・「YES!clean」表示制度・減農薬・減化学肥料などの環境にやさしい農業に取り組む農業者を認定するエコファーマー認定制度の普及拡大により、クリーン農業や有機農業を進め、環境との調和に配慮した安全良質な農産物づくりを推進する。
- ・土壌診断に基づく適正施肥を指導するとともに、作物に応じた減肥栽培技術の確立やクリーニングクロップの効果的な活用を行うための現地試験を実施する。

豊かな海を育む水産業の展開

- ・依存度の高いホタテガイ・サケ・マスの安定生産に向けた栽培漁業の推進と、毛ガニやキチジなど限りある水産資源の持続的な利用を図るための資源管理型漁業を確立する。
- ・特に、近年の低気圧被害により生産が減少しているホタテガイについて、災害に強い漁場づくりを推進する。

地域に応じた森林づくりを進める林業・木材産業等の健全な発展

- ・更新されない造林未済地解消のための行動計画(3カ年)を作成し、産官学が一体となった解消方法や未然防止対策、現場パトロール、伐採から植林まで一体的に実施することによる低コスト施業の検証、資源調査などを実施する。
- ・「地域材『産消協働』アクションプログラム」に基づき、木造牛舎の普及や地域材を利用した家づくりに取り組む工務店などが参加する協議会の設立などに向けた取組を推進する。

環境・リサイクル関連産業の振興

- ・北見工業大学など関係機関との連携や中小企業地域資源活用プログラムなど国の支援制度の活用などにより、環境・リサイクル関連産業を振興する。

高い技術力を活かした住宅関連産業の振興

- ・地域にふさわしい住宅と町並みの形成を図る北方型住宅の建設を推進する。
- ・高い品質を保证するJAS規格に適合した道産木材を木材使用量の半分以上に使用する「北の木の家」住宅の普及と「北の木の家」住宅を施工する工務店等の認定を推進する。

新エネルギーの開発・導入の促進

- ・管内市町村における地域新エネルギービジョン策定を進めるとともに、ペレットストーブ等の公共施設への率先的な導入を促進する。
- ・燃料用森林バイオマスの安定的な供給体制の確立に向けた新たな生産拠点の整備を目指すとともに、太陽光発電システムの普及啓発に向けた取組を促進する。
- ・オホーツクバイオマスネットワーク会議により、産学官の連携・情報発信・普及啓発などを進め、バイオマスの利活用を推進する。

3 オホーツク連携地域 (網走地域)

地域の経済活性化を支える基盤づくり

産業人材の育成

- ・地域農業を支える優れた担い手を安定的に確保するため、受入体制づくりなどの構築を進めるとともに、特に、地域のリーダーとなる青年農業者の育成を通じて、地域農業を持続的に発展させるため、農業団体と連携し、高度な農業技術や幅広い知見を習得するための総合的な研修を実施する。
- ・林業労働力の減少や高齢化などに対応するため、北海道森林整備担い手対策基金の活用などによる林業労働者への拡充支援や新規参入希望者への支援体制を整備する。
- ・青年漁業者や中核的漁業者を養成し、豊かで活力ある漁村づくりを推進する。
- ・民間職業能力開発施設による職業訓練や道立高等技術専門学院での公共職業訓練などにより、地域に必要な産業人材を育成し確保する。
- ・道立高等技術専門学院での「オープンキャンパス」などの取組を通じて若年者のものづくりに対する意識を醸成する。

産業拠点の形成

- ・北見地域において、北海道産業振興条例や企業立地促進法など国や道の支援制度を活用するなどして、食品関連企業や情報通信関連企業などの立地を促進する。
- ・立地企業へのフォローアップを実施し、立地後のサポートを強化するとともに、新たな設備投資や地元企業との連携に関する情報収集を実施する。

交通・物流・通信インフラの整備

- ・北海道横断自動車道や旭川・紋別自動車道など高規格幹線道路を中心とした交通ネットワークを早期に整備する。
- ・重要港湾に位置づけられている網走港・紋別港における安定的な出入荷体制の確立、貨物取引量の増加、観光拠点としての機能を一層発揮できる港湾整備を促進する。
- ・女満別空港、紋別空港の機能強化や路線の充実を図るとともに、東アジアを中心とした海外からの観光客の誘致を促進するため、女満別空港におけるC I Q体制を整備し拡充する。
- ・情報発信などによる産業の活性化を進めるため、通信事業者や市町村などと連携してブロードバンド環境の整備を促進する。

3 オホーツク連携地域 (網走地域)

網走地域の主なデータ

1 人口(H17)	324,849人	国勢調査
2 事業所数(H18)	14,899事業所	事業所・企業統計調査 (農林水産業及び公務を除く民営ベース)
3 小売業		
(1) 事業所数(H19)	3,148事業所	商業統計調査(速報値)
(2) 従業者数(H19)	20,396人	"
4 製造業		
(1) 製造品等出荷額(H18)	42,479,584万円	工業統計調査
(2) 従業者数(H18)	13,349人	"
5 建設業		
(1) 事業所数(H18)	1,488事業所	事業所・企業統計調査
(2) 従業者数(H18)	13,925人	"
6 観光		
(1) 観光入込客数(H19)	925万人	北海道観光入込客数調査
7 農業		
(1) 農業産出額(H18)	1,711億円	生産農業所得統計
(2) 農家人口(販売農家)(H17)	25,999人	世界農林業センサス
8 漁業		
(1) 漁業生産額(H18)	51,715百万円	北海道水産現勢
(2) 漁業就業者数(H15)	2,560人	第11次漁業センサス
9 林業		
(1) 森林面積(H19.4.1現在)	770,336ha	北海道林業統計

< オホーツク連携地域における地域間連携による取組 >

- ・遠紋地域ならではの魅力あふれる体験観光地づくりを進める「オホーツクDO田舎体験倶楽部」や斜網地域でシーニックバイウェイを推進する「NPO東オホーツクシーニックバイウェイサポートセンター」、北見地域における広域観光及び物産振興を推進する「北見地域広域観光推進協議会」や、「道東4地区観光連盟連絡協議会」と連携を図りながら広域観光の推進を図る。
- ・オホーツク連携地域における魅力ある観光地づくりを進めるためには、阿寒国立公園や知床国立公園など共有する観光資源を持つ十勝連携地域や釧路・根室連携地域との地域間連携による観光メニューの開発や道内外への効果的なPRなどが重要となっている。
- ・このため、道東4支庁管内の体験観光事業者などとの連携による体験観光ビジネス交流会を開催し、道東の体験型観光の魅力を旅行会社などにPRするとともに、道東地域の行政や観光関係団体、一次産業・二次産業関係団体との連携による道東地域観光戦略会議を開催するなど、広域観光の推進を図る。
- ・隣接する十勝連携地域、釧路・根室連携地域、日高地域など周辺観光地との連携を深め、観光ルートの設定、情報交換の推進を図るため、道東4支庁観光連盟連絡会議、ひがし北海道観光連絡協議会、大雪・十勝広域観光推進協議会などとの連携を図る。

